

高等学校第1学年英語科学習指導案

- 1 日時 令和4年2月2日(水) 第2校時
- 2 学年 1年4組 40人
- 3 指導者 藤田 拓磨
- 4 単元名 PROMINENCE English Communication I (東京書籍)
Lesson 9 Father of the Paralympic Games

5 教材観

本単元は身体障害者を対象とした国際的なスポーツ大会である「パラリンピック」の創始者であるルートヴィヒ・グットマンを取り上げている。以前は身体の機能を失い未来への希望も持つことができず、時には余命も長くないと宣告されてきた身体障害者だったが、グットマンが病院で導入した医療ケアと身体障害者の社会復帰を目指して実施された身体訓練によって彼らの生存率は大幅に高まった。グットマンの功績は身体障害者の生存率を高めたことにとどまらず、身体障害者の回復の1つの段階としてスポーツに着目し、後にパラリンピックへと発展していくスポーツの大会を開催したことにある。将来への希望を失くしていた身体障害者を救ったグットマンについての文章を読み、障害者スポーツに対する彼の思い、障害者の人生がいかに変わったのかを読み取ることでパラリンピックに興味を持って障害者への理解を深め、これからの共生社会について自ら考えられるようになることが期待できる。

6 生徒観

本学級は英語の授業においては、クラスメイトと意見を述べたり交換したりしあうのを楽しんでいる生徒が多い。クラスの全員が分け隔てなくお互いに関わることができ、日常の中で話をする仲でなくても、英語の授業では話すことができるという生徒も多く、雰囲気は良好である。授業中の教員の問いかけに対して答えにつまる生徒が出てくると、周囲の生徒が教える姿も見られる。

しかし、自分一人の力でじっくり英文を読み、考えることは苦手な生徒たちが多く、一文が長くなり、文構造が複雑化すると読み取るのが難しくなるため、あきらめてしまう傾向がある。語彙や文法の定着度に関しては総じて低く、個人間でも差が見られる。音読活動は学習事項の定着を図るためにも必要な過程であるが、同じ英文をただ繰り返して読むとなると途中で飽きてしまうため、新出の語彙や表現を活用するような発問やタスクを作成して活動が単調にならない工夫をしなければならない。問いかけ方やタスクの課し方については、しっかり考えさせたいうえで、英語が苦手な生徒たちにも教員側から必要に応じて助言・指導ができるようにするため、口頭のみでの問いかけではなく、紙面で行いたい。

7 単元の計画

(1) 単元の目標

多様性を尊重し、障害のあるなしにかかわらず参加・貢献できるこれからの共生社会について考えを深めるために、パラリンピックの発祥とパラリンピック選手について、読んだり聞いたりしたことを基に書くことができるようになる。

(2) 単元の評価基準

観点		評価規準
A	コミュニケーションへの積極性	(1) 積極的に活動に参加しようとしている。 (2) 相手の言うことを理解しようとしたり、自分の考えを述べようとしたりしている。
B	外国語表現の能力	(1) 質問されたことに対して答えることができる。 (2) 自分の考えを英語で表現することができる。
C	外国語理解の能力	(1) 本文の内容の概略を掴むことができる。
D	言語や文化についての知識・理解	(1) 語句や表現の意味や用法を理解している。

(3) 単元の指導計画

1	導入及び本単元の文法	教科書 p.134 Grammar
2	Part 1 の理解	Guttman が医学を学ぼうと決意したきっかけ、障害のある患者と関わることになった経緯を読み取る。
3	Part 2 の理解	Guttman が勤務する病院で障害のある患者のために何をしたのかを読み取る。
4	Part 3 の理解	Guttman が開催したスポーツ大会のパラリンピックへの変遷と、その背景にあった Guttman の願いを読み取る。
5	Part 4 の理解	パラアスリーの Lewis がスポーツと出会い、どのように人生が変化していったかを読み取る。
6	単元全体の復習	Part1～4 までの内容を整理する。
7	書く活動	単元全体から、パラリンピックが創設されるまでを英語で書き、また、自分が興味を持ったパラアスリートについて紹介する文章を英語で書く。
8	書く活動まとめ	タブレットを使って、コンピュータで文章を完成させる。

8 本時について

(1) 本時の目標

- ・パラリンピックが創設されるまでを英語で書けるようになる。
- ・自分が興味を持ったパラアスリートについて紹介する文章を英語で書く。

(2)本時の展開

学習活動	時間 (分)	活動内容	指導上の注意	基準
(1) 単元の復習と書く活動の準備	10	(1) パラリンピックがどのように創設されたのかを書くために必要な語を新出語の中から取り上げ, 発音の練習と意味の確認をする。	(1) 発音とつづりを定着させるため, 教員が語を任意の音節に分けることで, 発音とつづりに意識を向けさせて練習させる。	A
	10	<p>(2) Guttmannが開催したスポーツ大会がパラリンピックに発展していくまでの過程を生徒に問いかけながらまとめていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何がパラリンピックへと発展していったか。→Guttmannが患者たちのために開催したスポーツ大会。 ・患者たちはなぜスポーツを始めることになったのか。→患者が回復するための重要な段階として, Guttmannがスポーツを導入したから。患者たちが社会復帰するために, 回復への希望を持ち続けるようGuttmannが身体訓練を導入したから。 ・Guttmannが患者たちの社会復帰のために, 回復への希望を持ち続けるよう励ました背景はどのようなものであったか。→Guttmannが勤務していたStoke Mandeville病院の患者たちは自分たちのケガのことで絶望していて, 何にも無気力になっており, Guttmannはその状況を変えると決心したから。 	(2) Guttmannが開催したスポーツ大会がパラリンピックに発展していく過程を時間を遡って確認していくことになり, 教科書本文の構成とは異なるため, つまづきが見られれば丁寧に問いかけ直す。	

		<ul style="list-style-type: none"> ・ Stoke Mandeville病院で医師として働くことになったのはなぜか。→ナチス政権下でドイツからイギリスに逃れたため。 ・ 医学を学び始めたのはなぜか。→地元の病院で患者の介助をしていた時に、患者の一人だった若者の死を体験したから。 		
(2) 書く活動	15 10	<p>(1) 前活動である単元の復習の内容を使いながらパラリンピック創設されるまでを英語で書く。</p> <p>(2) 自分が調べたパラアスリートのことについて書く。</p>	(1)(2) 机間巡視をしながら、書けないでいる生徒への助言をする。	B
(3) まとめ	3	(1) 用紙を提出する。	(1) 提出された用紙を次回の授業で返却し、タブレット上の文書作成ソフトで仕上げることを伝える。	